

目標	視点	アンケート項目（上…児童 中…保護者 下…教職員）	児童					保護者					教職員					視点 平均	目標 平均	前年度 比	自己評価結果からの考察（■）・対策（◇）	学校関係者評価による提案・意見
			4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均					
おおきなこころで	平和・人権・ 生命	私は、自分もみんなも楽しくなれるよう、いじわるや悪口をせず生活している	137	195	52	19	3.1											3.2	3.2	-0.14	■ 教職員の教育活動や学校での指導が、児童や保護者に十分浸透していないことが、各項目の平均値の差に表れている。 ■ 児童・保護者の1～2割前後が1または2という回答から安心安全な学校づくりに一層の取組を要する。特に「生活指導」については保護者からの要望が高い。 ■ 生活指導を含め、学校の教育活動全般を通じた人権意識、自己肯定感の向上を一層充実させることが求められている。 ◇ 「小栗小25のきまり」に基づく指導の徹底や保護者への周知による学校・保護者間で指導の共有を図る。 ◇ 個別相談に係っては、担任のみならず心の教育相談員やスクールカウンセラーの活用も積極的に行うとともに、保護者へも周知していく。	○ 地域において気持ちの良いあいさつができる子が多くなってきた。 ○ 地域の公園で遊ぶことは良いことだが、遊び方では注意をすることもある。 ○ ゴミを散らかしてしまうことが見られる。大人による声掛けの必要性を感じる。また、掃除の計画を立ててみてはどうか。 ⇒あいさつは登校時の立哨をしても自然体でできる子が増えてきていることを実感できる。学校外での遊び方やマナーについては継続的な指導は学校でも行っていく。
		子どもが安心して登校できるよう、人権・平和、命に配慮した学校・学級づくりに努めている						37	57	7	3	3.2						3.2				
		学校の教育活動全体を通して、命や人権について指導するとともに、道徳的価値を高めるように努めている											16	4				3.8				
	生活指導	私は、元気よくあいさつや返事をしたり、学校のきまりを守ったりして生活している	161	184	45	13	3.2											3.2				
		子どもが挨拶や言葉遣い等、学校や社会生活でのきまりを守れるような指導や支援に努めている						31	52	19	3	3.1						3.2				
		機を逃さない生活指導を通じ、児童の規範意識の向上に努めている											19	1				4				
	自己肯定感	良いことをしたとき、先生はほめてくれる	175	155	47	26	3.2											3.2				
		子どもが自己肯定感を高められるような支援や配慮に努めている						33	53	8	5	3.2						3.2				
		子どもの特性を把握し、自己肯定感の向上に努めている											14	6				3.7				
	子どもの相談	悩みや困ったことがあると、先生が相談に乗ってくれる	172	145	53	33	3.1											3.2				
		子どもの悩みや困りに応じた支援や配慮に努めている						38	47	9	5	3.2						3.2				
		子どもの相談や困りに向き合い、適切な支援や配慮に努めている											14	6				3.7				
ぐんぐんのびる	体力向上	私は、運動や外遊びをよくしている	219	81	80	23	3.2											3.2	3.2	-0.10	■ 「体力向上」においては児童、保護者、教職員の数値がほぼ同等で取組が一定の成果になっていると思われる。しかし、児童の中には体力向上に消極的な子も見取れる。 ■ 「生活習慣」は保護者、教職員は双方の連携が比較的取れていると見られるが、児童自身は全体的にもう少しだと感じている。児童（我が子）の実態を注視する必要がある。 ■ 「健康な生活」において、学校における児童への啓発活動が必要である。 ◇ 心身の健康を維持増進させるための継続的な取組を学校、家庭両面から進められるよう学校からの情報発信を推進する。 ◇ 体育・保健の授業の一層の充実や外遊びの励行 ◇ 生活習慣については家庭での子どもの様子を見取っていただく。	○ 地域差もあるようだが、外遊びをしている子を見かけることが少ない。（室内でのゲーム遊びが多いという懸念） ○ 課外クラブへの参加が減ってきていることによる体力の低下を懸念する。 ○ 子ども間のSNSトラブルが多い。学校での情報モラル教育のみならず、保護者の管理監督の果たす役割は大きい。また、管理監督の仕方や周知も必要である。 ○ コミュニケーション力や表現力が未成熟な小学生がSNSを使用することに危険を感じている。機器を与えているのは保護者なので、管理すべきは保護者である。 ○ SNSやゲームによる生活習慣の乱れを心配する。 ⇒SNSに関する事案は喫緊の課題である。学校でできること、家庭ですべきことの理解を一層深めることで、子どもたちの安心安全な生活につなげる。
		子どもの体力が向上するように、運動の機会を設けるように努めている						42	51	10	4	3.2						3.2				
		運動の機会、運動量の確保と個に応じた基礎体力の向上に努めている											5	9				3.4				
	生活習慣	私は、早寝・早起き・朝ご飯などの規則正しい生活をしている	154	147	83	19	3.1											3.1				
		子どもの基本的な生活習慣の形成のため、家庭との連携に努めている						44	42	14	3	3.2						3.1				
		子どもの基本的な生活習慣の形成のため、家庭との連携に努めている											5	12				3.3				
	健康な生活	私は、自分の病気やけがをしないように気を付けたり、食べ物の好き嫌いをしらず、健康に気をつけた生活をしている	159	170	62	12	3.2											3.2				
		家庭と連携し、子どもの食生活を整えたり、けがや病気を予防したりして健康な生活を送れるように努めている						36	53	7	2	3.3						3.2				
		家庭と連携し、子どもの食生活を整えたり、けがや病気を予防したりして健康な生活を送れるように努めている											3	11	2			3.1				
	達成感	私は、学習や自分の役割に最後までねばりつよく取り組んでいる	173	165	49	16	3.2											3.2				
		目標を持たせて物事に取り組みせ、ねばり強くやり遂げる教育に努めている						36	52	8	4	3.2						3.2				
		適度な負荷のかかった取組に粘り強く取り組み、乗り越えた達成感を味わわせるよう努めている											7	13				3.4				
いっぱいな考え	学力向上	私は、先生がわかりやすく勉強を教えてくれていると思っている	267	105	25	6	3.6											3.5	3.2	-0.01	■ 家庭学習は宿題等を帰宅以前に済ませることもあることと、家庭学習の進め方が十分定着していないことが数値に表れている。 ■ 読書に関しては唯一平均値3を下回る結果であり、児童自身が読書離れを自覚していることがあげられる。全校的には貸出冊数は伸びているものの、二極化している。 ◇ 読書の有用性について特に力を入れ、現在の読書活動への取組の見直しを図る。 ◇ 学力向上は学校主導の側面が強い項目でもあり、授業改善や自主学習の進め方の教授の推進が一層必要。	○ 地域での学びの場を提供していただいているのが大変ありがたい。 ○ 地域での学びの場に通う子どもたちは意欲的・自主的であり学力も身に付いてきている。 ○ 地域での学びの場では指導者の人材不足が課題である。 ○ 宿題の習慣化や個に応じた学びは大切である。 ○ 子どもたちが学習の仕方を学ぶことは、学力向上につながるのではないだろうか。 ⇒学びの習慣において、地域に学びの場があるのは心強い。このような場が持続可能な形で続いていくことを模索したい。また、学習の仕方を学ぶことは、学校における学びの土台となる点であることを再確認できた。
		子どもが楽しく学び、必要な学力が身に付くよう授業を工夫している						42	53	5	2	3.3						3.5				
		子どもが楽しく学び、必要な学力が身に付くように研修や授業改善に努めている											12	7				3.6				
	家庭学習	私は、宿題や自主学習を家でもきちんと取り組んでいる	198	128	60	17	3.3											3.2				
		子どもが家庭学習に自主的に取り組むことができるように工夫している						31	48	12	8	3						3.2				
		家庭と連携し、家庭学習（宿題）や自主学習の習慣化を図れるよう努めている											9	7				3.6				
	読書	私は、学校や家で読書をよくしている	149	106	92	56	2.9											3				
		読書や読み聞かせなど、読書活動の推進に努めている						43	46	10	4	3.2						3				
		本に親しむ機会を設け、読書の習慣を図るよう努めている											10	5	1			3.6				
その他	保護者の相談者の																	3.4	/	/	■ 学校からの情報提供や相談については概ね理解を得ている。 ■ 平均値にとらわれすぎず、特に1・2の回答に目を向けた取組を講じるよう努め、2を3に引き上げる。 ■ 保護者のアンケート回答率が約35%。アンケートとしての信憑性に欠けるところではあるが、概ねの傾向は読み取れるものと考える。	
		保護者の相談に真摯に応じている						58	43		1	3.5										3.6
	情報発信	保護者の相談に真摯に応じるよう努めている											15	2								3.9
																						3.4
		学校・学年・学級だより等で子どもの様子を伝え、家庭・地域と連携した教育に努めている						58	42	4	2	3.5						3.4				
		学年・学級の様子を発信し、家庭や地域との連携に努めている										5	7	3				3.1				